

来週の金融市場見通し

< 6/5 ~ 6/9 >



しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号
Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会/一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL: [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

米国政府の借入金の限度を定めた債務上限の適用を2025年1月まで停止する法案が、米上下院で可決され、近く成立する見込みです。市場はある程度織り込んではいましたが、米国の債務不履行(デフォルト)回避を受け、投資家心理が上向きそうです。他方、米連邦準備理事会(FRB)が6月の会合で追加利上げに踏み切るかについては、市場の見方は一転二転していますが、足元では見送りが優勢です。来週は米ISM非製造業景況指数などを確認しながら、翌週の米利上げの有無を占うことになりそうです。

◆株価：やや軟調な展開か

【予想レンジ】日経平均株価

(来週) 31,100~31,800円 (6月) 28,500~32,500円



(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

日本株は、やや軟調な展開が予想されます。日経平均株価は約33年ぶりの高水準で推移しており、高値警戒感が株価を圧迫する見通しです。また、米国の利上げをめぐる不透明感も株価の重しとなりそうです。ただ、米国株と比べた日本株の割安感などから、海外投資家による日本株への投資意欲は根強いとみられ、日本株の下落は限定的となりそうです。そうした中、2日に発表される米国の雇用統計を受けた市場の動きなどが注目されます。

◆為替：一進一退

【予想レンジ】ドル円レート

(来週) 137.5~140.5円 (6月) 130.0~143.0円



(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

ドル円は、方向感を欠く中、一進一退の展開が見込まれます。堅調な米景気を背景にインフレが高止まりしており、6月あるいは7月のFOMCにおいて追加利上げが実施される可能性があります。それを受け、ドル円は基本的には底堅い展開が続くそうです。一方で、6月の利上げは見送られるとの観測も出ていることから、ドル円の上値余地も限定的とみられ、ドル円は、米雇用統計の結果を確認しながら、一進一退の展開となりそうです。

◆長期金利：翌週のFOMC待ち

【予想レンジ】長期金利(新発10年債利回り)

(来週) 0.35~0.45% (6月) 0.30~0.60%



(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

長期金利は、米物価関連指標の上振れを受け、FRBの利上げ継続観測が強まり、米金利とともに一旦上昇したものの、FRB高官が利上げ見送りを示唆したことを受け、低下する動きになりました。米国の利上げの有無に振らされる状況が13、14日の米連邦公開市場委員会(FOMC)まで続きそうです。米債務上限問題への警戒が払しょくされ、逃避先である国債を買う動きが後退する中、長期金利の低下余地は限定的とみられます。

◆Jリート：上値を探る

【予想レンジ】東証REIT指数

(来週) 1,840~1,890ポイント (6月) 1,800~2,000ポイント



(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

東証REIT指数は、1,880ポイントまで上昇しましたが、その後は上げ幅を縮小しました。もっとも、1,850ポイント割れの水準では値ごろ感からの買いも入り、底堅い地合いが続いています。米債務上限問題への警戒が大きく後退していることは安心材料です。経済再開への期待やインバウンド需要の増加も引き続き市場を下支えするとみられます。しばらくは、米金融政策をめぐる思わく振らされながら、上値を探ることになりそうです。

■来週の主な内外スケジュール

	国内	海外
6/5 月	—	米ISM非製造業景況指数(5月) 米製造業受注(4月) ユーロ圏生産者物価指数(4月)
6/6 火	30年利付国債入札 家計調査(4月) 毎月勤労統計(4月、速報値)	ユーロ圏小売売上高(4月) 豪中銀・金融政策委員会
6/7 水	景気動向指数(4月、速報値)	経済協力開発機構(OECD)経済見通し 米貿易収支(4月) 米消費者信用残高(4月) 中国貿易収支(5月) 中国外貨準備高(5月)
6/8 木	国庫短期証券入札(6か月) 流動性供給入札(残存期間5年超15.5年以下) 景気ウォッチャー調査(5月) 貸出・預金動向(5月) 東京都心オフィス空室率(5月) 国際収支(4月) GDP統計(23/1-3月期、2次速報)	米卸売在庫(4月、改定値) 米新規失業保険申請件数(6/3終了週) ユーロ圏GDP統計(23/1-3月期、確定値)
6/9 金	国庫短期証券入札(3か月) マネーストック(5月)	中国生産者物価、消費者物価(5月)

(注) スケジュールの内容、日程が変更になる可能性があります。
(出所) 各種報道を基に、しんきん投信作成

■来週の注目点

景気ウォッチャー調査(5月) 6月8日(木)午後2時発表

景気ウォッチャー調査の現状判断指数(DI)は、4月に前月差1.3ポイント上昇の54.6となり、緩やかな景気回復基調を示しました。家計動向関連では小売関連などが上昇し、企業動向関連では非製造業が上昇しました。

5月の現状判断指数も、小幅な上昇が見込まれます。新型コロナウイルスによる影響が和らぐ中、家計動向関連の景気回復が見込まれるほか、部品不足の緩和などを受け、企業動向関連の持ち直し傾向が示される見込みです。ただ、物価高や海外景気の減速懸念などを踏まえると、現状判断指数は当面、緩やかな上昇にとどまりそうです。



ISM非製造業景況指数(5月) 6月5日(月)午後11時発表

米供給管理協会(ISM)が発表した4月の非製造業景況指数は、51.9と前月の51.2から改善し、米国のサービス分野の活動は拡大したものの、そのペースは緩やかなものとなりました。同指数は50が活動の拡大縮小の境目とされています。

高止まりが続いているインフレや米連邦準備理事会(FRB)によるこれまでの大幅な金融引締めを受けて、サービス需要は徐々に軟化しており、今後の個人消費の動向には不透明感が高まっています。5月の同指数は52.5程度を想定しています。



<本資料に関してご留意していただきたい事項>

※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。

※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。

※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

※投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。

※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

【お申込みに際しての留意事項】**■ 投資信託に係るリスクについて**

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■ 投資信託に係る費用について

（お客様に直接ご負担いただく費用）

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 上限 3.3%(税抜 3.0%)
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 上限 0.3%

（保有期間中に間接的にご負担いただく費用）

- ◆ 運用管理費用（信託報酬）・・・純資産総額に対して、上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用（手数料等）の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。